

別表第1（第5条関係）

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	保健センター管理運営費				
担 当 課 係 名	保健	課	-	係	作成者 赤坂宏秀
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち			総合計画のページ
	基本計画	地域医療、救急医療体制の整備			
	主要施策	医療・保健・福祉施設の連携			49
予 算 費 目	一般	会計	4 款	衛生費	1 項 保健衛生費 4 目 保健センター費
事 業 期 間	平成	年度	～	平成	年度 新規／継続の区分 継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市保健施設条例				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	地域住民の健康の保持増進及び福祉の向上を図る。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	地域住民の保健、福祉サービスを総合的に推進できる活動拠点とする。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	地域住民の健康の保持増進及び福祉の向上図るため、予防、健診など各種保健事業及び福祉サービスを行う。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	西木保健センター開館日数	目標	日	247	246	243	
			実績	日	247	246	243	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	利用日数	目標	日	53	89	72	
			実績	日	53	89	72	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				2,598	2,591	2,587	
	人 件 費 (B)		—		785	807	793	
	職 員 数		—		0.10	0.10	0.10	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				3,383	3,398	3,380	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				3,383	3,398	3,380
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		13,696	13,813	13,909
市民1人当たりのコスト(円)		—		106	108	109		

【事務事業の今までの成果】

建設当時は、それぞれの町村において保健センターの機能を十分に生かし、地域住民の健康の保持増進及び福祉の向上に寄与していたと思われるが、旧角館町では、健康管理センター、旧田沢湖町では、健康増進センターが建設され、保健業務の活動拠点がセンターに移管された。（旧西木村では、拠点として使用している。）

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	合併による休止、廃止及び転用が取りざたされている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	特になし

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
D	A 現状のまま継続（実施）	保健、福祉サービスを総合的に行う拠点として機能していない。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

角館保健センター及び田沢湖保健センターについては、機能が失われている。西木保健センターは、現在も使用されている。今後の維持及び管理運営については、検討の余地がある。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
D	施設の現状を踏まえ、施設の必要性や利活用の方策について早急に検討し、対応しなければならないと考えます。

一次評価診断図

